

## コネクターハブ(地域中核)企業のモデルとして 日東精工は国から注目されています

「コネクターハブ企業」とは、その企業が立地している地域からより多くの仕入を行い、取引関係のハブとなっている企業のことです。と同時に、販売取引を通して地域と外部をつなげる役目も果たしています。雇用の創生が生まれるなど地域に多大に貢献することから、「コネクターハブ企業」をより成長させようという政策が加速化しつつあります。当社、日東精工も経済産業省から「コネクターハブ企業」のモデルとして評価されています。

昨年4月のニュースレターでは、太田直樹総務大臣補佐官と当社 日東精工代表取締役社長 材木正己の対談を特集しました。「地方創生に貢献する企業」モデルとして、総務省が当社事業に注目、広報誌「総務省(MIC)」で大きく取り上げられたものでした。  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/kouhoushi/koho/1503.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/kouhoushi/koho/1503.html)



さて、「地方創生関連」では昨今「コネクターハブ企業」という言葉も耳にするようになってきました。コネクターはつなげるもの、ハブはハブ空港という表現もありますが、中心とか集約地、拠点です。グローバル競争が激化する中で海外に拠点を移す企業が増える一方で、国内の基盤を盤石にし、戦略的に国内で事業展開する企業もあります。国内に拠点を置き、その企業が所在する地域内から多くの仕入れを行い、取引関係のハブとなり、そして地域外へ販売(他地域との取引をつなげる)コネクターの機能を担っているのが「コネクターハブ企業」です。

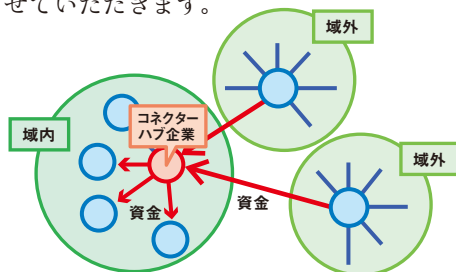
コネクターハブ企業は、いわば地域の中核的企業であり、かつその取引構造を通じて政策支援効果を他の企業に及ぼす影響度も高い存在であることから、今後、今まで以上に国の政策ターゲットの中心とな

ることが期待されるものです。

経済産業省のまとめでは、全国に約3,600社、近畿エリアでは891社の「コネクターハブ企業」があります(『中小企業白書2014』より)。この度「コネクターハブ企業の実態調査」が行われ、当社もコネクターハブ企業のモデルとして評価され、その調査に協力させていただきました。

80ページほどの報告書がまとめられ、そのなかで50社の事例が紹介されています。社名こそ伏せられアルファベット表記ですが、「協力企業群育成型」(産業が集約していない場所に立地し、調達先を長期的に育成。取り組み内容は人財育成にまで及び、地域貢献への意識が高い)コネクターハブ企業として、当社日東精工の事例が丁寧に紹介され、高く評価されています。

以下、次ページでは「報告書」から関連部分を引用させていただきます。



※「コネクターハブ企業(地域中核企業)」は東京大学坂田一郎教授が提唱したもので、「地域や業種の区分の中で取引が集中する度合い」と「地域や業種を超えた取引を行っている度合い」がともに高い企業とされている。また『中小企業白書2014』で「コネクターハブ企業」とは、『地域の中で取引が集中しており(取引関係の中心となっているハブの機能)、地域外とも取引を行っている(他地域と取引をつなげているコネクターの機能)企業」を指し、その中でも特に『地域経済への貢献が高い企業、具体的には、『地域からより多くの仕入を行い、地域外に販売している企業』をコネクターハブ企業としている。

## 「コネクターハブ」としての日東精工

以下は経済産業省近畿経済産業局発行、平成27年度「関西のコネクターハブ企業の実態調査」報告書より、抜粋させていただきます。報告書には当社が7番目の事例としてG社として表記されています。

<http://www.kansai.meti.go.jp/7kikaku/27report/27connector-hub.html>

### 1) 企業概要

G社は綾部市に本社を構える金属製品製造業である。地域の雇用創出と産業の発展を理念として、1938年に創業した。東証一部に上場している。

### 2) コネクター機能

工業用ファスナー(ねじ)を生産しており、当初はカセットテープやビデオデッキ向けのねじを製造していたが、その後は市場の変化に応じてカメラや携帯電話用ねじ、現在は域外の大手自動車メーカーや大手家電メーカー100社程度に製造販売を行っている。

### 3) ハブ機能

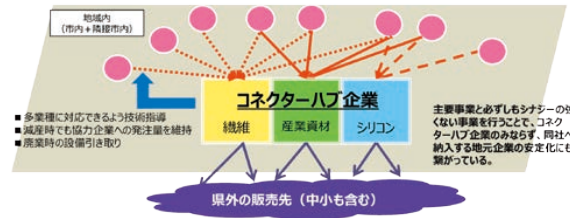
数百家と調達・仕入関係にあり、このうち20社が協力を自主的に組成し、G社が側面サポートしている。地域産業の発展のため、可能な限り地域と取引をすることとしており、同値であれば必ず地域に出すようにしている。運搬のロス、利便性の良さなどのメリットもある。原材料(鉄線等)は商社経由で域外調達するが、協力企業分をG社がまとめて調達することにより調達コストを削減している。

リーマン・ショックの影響は大きかったが、当社及び調達先が共同で我慢することで乗り切った。

昭和40年代に夜間学校を綾部市で設立している。事務局は商工会議所で、綾部市の協力を得て、G社が自主的に運営している。週2回、夜2時間、コース別に学べる内容で、高校職業科卒業程度の知識を得ることができる(講師は当社の従業員)。一年間勉強して交流することで横のつながりが生まれており、それが50年継続している。

大学進学等で綾部市を離れた人にUターンしてもらうために、独自の奨学金制度も創設している。綾部市の人々が大学に進学すると、月5万円を出している。G社に入社してもらえば返済はない。また留学したい場合は、留学期間は月10万円を支給する奨学金も整備している。地元の人材が就職や海外のグローバルな視野を広げることを支援する内容である。

(傍線 報告書に準拠)



当社日東精工中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」では、海外マーケット拡大を目指しています。グローバル化をより進めていきますが、これは国内から海外へ拠点を移すというのではなく、国内基盤をより盤石にするための視野を広げることにつながります。近畿経済産業局の「報告書」からも、このことが読み取れるものです。

また同報告書には「コネクターハブ企業」と「そうでない一般企業」との比較統計調査もありますが、過去3年の業績の伸びが前者のほうが高いという報告があります。今後も当社では協力会社との連携を深めグローバル化を推進し、地域貢献へとつなげていくよう、邁進していきます。

関総一郎経済産業省近畿経済産業局長が3月24日、綾部にある日東精工本社を訪問、各設備などを見学されました。当社代表取締役社長木正己とも懇談いただき、設備投資、雇用拡大、地域経済の活性化につながる助成金のあり方などについて、活発な意見交換がなされ、関局長からは「今後の経済産業施策に生かしていきたい」というお言葉をいただきました。京都府綾部市まで局長自ら足をお運びいただいたことは、それだけ当社への期待が高いと受け止め、地域創生、日本経済へさらなる貢献を目指してまいります。



## 名古屋で開催の機械要素技術展に出展。 ファスナー、産機、制御システム 3事業の技術の総合力を強く訴求しました



4月19日から21日まで「ポートメッセなごや」にて「名古屋ものづくりワールド2016『第1回機械要素技術展』」が開催されました。開会式のスピーチでは、河村たかし名古屋市長が「横浜や大阪よりも名古屋港から海外への出荷量は断然多く、貿易黒字、日本経済に大いに貢献している!」と、自動車分野をはじめ、ものづくり企業が多い中部エリアの潜在力を強くアピールされ、実際、展示会場は熱気に包まれていました。

当社、日東精工もファスナー、産機、制御システムの3事業部が協同出展。製品を個別に紹介するだ

けにとどまらず、締結分野のトータルソリューションを強く訴求。これまでの展示会などでは既製品の紹介にとどめていましたが、今回初の試みとしてまだ発売前の製品「NX008T2」(低いトルクでねじ締めが可能な「NXドライブ」)を正面に配置したり、製品名も決定していない製品「薄板締結の問題を一気に解決する画期的ねじ」(首下の不完全ねじ部の影響をなくしたねじ)を展示したり、「プロトプロ」(金型不要で短納期、少量の高精度の試作品をお届けするシステム)を紹介したり……、日東精工の技術の総合力をプレゼンテーションしました。

## われら NITTO'sグループ

東陽精工株式会社

### 技術力と対話力が強みです

東陽精工は京都府綾部市にある日東精工グループの部品加工の会社です。

事業を大きく分けると、日東精工向けのもの、日東精工とは関連のない外部のお客様向けになります。前者では工業用ファスナーをはじめとする製品加工の各種金型を製造。後者、外部向けの展開としては、医療・医薬品、食品、OA機器など広範囲で展開しています。

ロー付け、熱処理、磨き、切削、放電加工、ワイヤーカット、プレスなど一貫加工し、超硬合金、高速度鋼、ダイス鋼ほか、あらゆる材質の加工に対応しています。ねじや精密鍛造部品は1分間に数百回という高速回転するヘッダーなどでつくられるので、そこに組み入れられる金型は、過酷な条件下で耐えられる品質が求められます。また医薬品は命に直結するものだけに、より安全性が求められるのですが、東陽精工は、それら高難度の要求に、柔軟に対

応できる高い技術力を誇ります。

昭和39年津田工業として創業、昭和51年に東陽精工に社名変更、平成2年に増資し日東



精工グループの会社となりました。社長の樋口正人さんは日東精工出身ですが、実家も部品加工会社で、樋口社長のお父様と創業者津田社長は幼馴染(戦友)だったそう。「不思議な縁を感じますね。人と人とのつながりを大事にしたい」と樋口社長。

「近ごろはFAXやメールで注文書と図面が送られてきて、それに対応するというケースもあるようですが、やはり生の声、コミュニケーションは大切にしたい。そこから相手のニーズを掘り下げ、求められている以上のものを提供する。ときには無理もお聞きする……高い技術力だけでなく、対話力、コミュニケーション力の高さも東陽精工の強みです」。



代表取締役社長 樋口正人。1973年日東精工株式会社入社。産機事業部などを経て2015年東陽精工常務取締役。2016年2月から現職。実家が部品加工会社だったこともあり、幼いころから機械になじみ、「組立加工技術」が体に染み込んでいる。早く先輩に追いつきたくて、人が嫌がることも率先、人が4年かけるところを2年でやり抜く。産機事業では「かしめ」関連の工程を6から1へ減らすなどし、常に新しいことにチャレンジ。「最初からできないと思わず、まず行動すること。たとうまくいかなかったとしても、それは必ず糧になる。小さな成功を積み重ねてほしい」。  
<http://www.touyouseikou.sakura.ne.jp>

幸せを感じる力を高めよう

〜自分本位でなく、相手本意で得られるもの〜

ある社長のお話を聞いて感銘を受けました。この社長の御趣味は花や野菜作り。ご自宅の庭や畑でできたものをお裾分けしたいと、数年前からご夫婦で近所のお年寄りに配られています。無料にするとかえって相手が気をつかわれるので、1回100円をいただいているとのこと。

その社長が「最初のころは『してあげている。幸せを届けている』というおごりがあったように思う。でも続けているうちに、そうでないことに気がついた。相手が喜ぶ姿を見たり、その方々と楽しくお話をしているうちに、『自分たちがこの方々から幸せや喜びをもらっている。させていたたい』とわかった……」とおっしゃっていました。

これはビジネスにもつながるお話ですね。いいものをつくる、開発することは大事だけれど、自己満足に陥っちゃいけない。驕りが

あつてはいけません。お客様満足度120%が基本です。そして、社長は人生に、そして仕事にも大切なのは「幸せを感じる力」だと続けられました。

与えられたことをノルマだと考えたり、嫌々取り組んでいるのであれば、そこに成長も喜びもありません。しかし、不得手なこと、厳しいことでも「こんなふうに変良ができる」「今までと違ったものを見つけれられるかも」と、そこに喜びや幸せを感じる事ができれば、人は向上できるのです。「辛い」という漢字に一を足せば「辛くなる」などともいいますが、あと一つの工夫、努力、発想の転換で、人は辛さを幸せに変換できるのです。「幸せを感じる力」を高めていきましょう。



「人生の『ねじ』を巻く77の教え」(ポプラ社)は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したものの書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものを随時ここでご紹介していきます。



地方都市にして贅沢、あやべ彫刻回廊

ねじのある街・あやべの魅力

綾部市制の記念の年に、箱根彫刻の森美術館などの協力のもと、市内8つのエリアにアート作品、彫刻が展示されました。「芸術はお金持ちのものだけでなく、パブリックなスペースに置かれ、誰もが自由に触れられるもの」という考えが一般的になりつつあります。たとえば東京駅近く、丸の内には「三菱一号館美術館」をはじめ「仲通り」に、いくつも作品が置かれ

ています(丸の内ストリートギャラリー)。綾部市の「あやべ彫刻回廊」もそれに負けず劣らずです。高村光太郎賞、ヘンリー・ムーア賞受賞作品など、「え、なぜここに!？」と、びっくりする作品に出合えるのも、日東精工本社のある綾部市の魅力です。



「誰かが見ている」(尾崎真一)

ねじ大好き!  
コラム

国民的人気漫画「ドラえもん」に「ねじ」が重要な鍵となるストーリーがあります。『ドラえもんのび太のねじ巻き都市冒険記』です。

「どこでもドア」や「タケコプター」「暗記パン」などはおなじみですが、この作品では「生命(いのち)のねじ」が登場します。ぬいぐるみや模型などにつけてまわすと命が吹き込まれるというこの道具を使って、小惑星に渡ったのび太やドラえもんたちがエコな都市づくりを目指すというもの。お約束通り、一波乱、ふた波乱ありというストーリーです。

「生命のねじ」は空想の世界にだけ存在するものですが、現実でも、自動車や飛行機などの動力源を、ねじが支えています。そしてねじそのものが生命に直結していることを改めて考えさせてくれるものです。



1997年に描かれ、映画化された長編シリーズで、本作品で藤子F不二雄は絶筆、遺作となった。漫画は小学館発行。映画のDVDも販売。映画の主題歌を歌っているのは、矢沢永吉!